



81

# 藩政時代の街並

島根県 津和野町

古いたたずまいを現代に残す家並。  
住民参加による清掃美化。津和野踊り、祇園祭の鶯舞も行われる地域のシンボル。



古い歴史のある津和野のなかでも殿町周辺は、古いたたずまいを残したところである。カトリック教会、藩校養老館跡、郡庁跡、家老多胡家表門など多くの史跡が集中しており、土塀に面した通りの水路には、この付近だけでも二万余匹放流された大小のコイが群遊し、また、季節には、花菖蒲の白や紫の花が武者窓の下の白壁を背景に咲き誇っている。この水路は、坂崎出雲守が津和野の城下町をつくった時に、用水路として掘らせたものといわれており、いわば津和野のシンボルともいべき存在である。

この街並を守るため、昭和五十三年度には伝統的文化都市整備計画が策定され、これに基づく環境保存地区整備事業として、土塀の整備復元、藩校養老館の通用門、代官門、家老門の復元などが行われているほか、住民の手による街並の清掃美化が続けられている。

## データボード

### ■所在地

島根県鹿足郡津和野町後田

### ■応募者

津和野町役場

☎08567-2-0650